



すたんどばいみー
STAND by ME

ばいみー通信

すたんどばいみー News Letter

No.1
2017.3

すたんどばいみー紹介——事務局より

私たちすたんどばいみーは、2001年にいちよう団地内で育った外国人青少年当事者によって立ち上げられた団体です。「すたんどばいみー」と言う団体名は「私の側にいて。私に寄り添って」などの意味があり、私たち外国人の「声」を聞いて欲しいなどと言う意味合いも込められています。活動の運営中心メンバーは、多数の高校生や大学生・大学院生の外国につながる青年と、日本人の青年たちです。私たちは、毎週学習支援教室の開催およびイベントの企画を自ら行っています。

私たちは、外国につながる子どもたちの学習支援だけでなく、母国のルーツや母語の継承につなげた実践活動を行ってきました。発足当時の団体の運営中心メンバーは母国で生まれて、幼少期で来日したものが多かったですが、現在は日本生まれの外国につながる青少年も活動に参加するようになりました。かれらは、日本の公立学校を経験しているため、自分たちの経験や葛藤などをふまえて後輩の育成に日々奮闘しています。高校生から活動に関わってきた者のなかには、社会人になったあとも活動に参加してくれているものもいます。

活動場所は、いちよう団地内にある大和市立渋谷中学校と併設している学校開放スペース「下和田の郷」です。子どもたちは決められた曜日にスタッフに呼びかけられ学習教室に通います。現在は、教室に通ってくる子どもが定着するようになりましたが、立

ち上げ当初などは、親の母国的なしつけのもとで家から外出することが許されないような子どもたちもいました。そのため、スタッフが出かけて行く「家庭訪問」などによって学習のサポートをしていました。現在は、そのような親の厳格なしつけの元で家から出られないという子どもは減りつつありますが、一方で著しく学校からの学習支援不足によってクラスの学習について行かれないような子どもあるいは、離婚し片親家庭のため、十分なケアが受けられていないなどと言った理由で「家庭訪問活動」の実施をしています。

法人としての再スタート

2001年に外国につながる青少年当事者によって設立した任意団体「すたんどばいみー」は、昨年7月にNPO法人としての新たな挑戦をするため、外国人支援ネットワークすたんどばいみーと改名し、11月28日に晴れてNPO法人格を有することになりました。法人化に伴い活動を5つに整理しました。私たちの事業として以下のようにあります。

- ①外国人子ども支援事業
- ②外国人大人支援事業
- ③学校相談支援事業
- ④多文化共生推進事業
- ⑤多文化共生社会に関わる調査研究事業

今後は、このような通信やSNS、ホームページを通じて私たちの活動を多くの方に知って頂けるような取り組みを行っていききたいと思います。



REPORT 外国人子ども支援事業

小・中学生合同キャンプ

【開催日】2016年8月4,5,6日 【場所】長野県 駒ヶ根キャンプセンター
【参加人数】小学生13人 中学生6人 大人10人

活動目的

今年のキャンプも、昨年に引き続き、小学生と中学生の合同キャンプを行いました。その目的は、「学年や年齢を超えた関係づくり」です。小学生には、中学生教室の存在を知ることによって、スムーズに中学生教室に移行しやすいような環境を整えたり、日々の学校生活の悩みを中学生にも相談したりすることができるようなきっかけをつくること。また、小学生同士の関わりを持ち、協力し合えることを意図しました。中学生には、自分達の経験を踏まえ、先輩として小学生と関わることや、中学生どうしの関わりを深めることを意図しました。

活動内容

小中合同キャンプの場合、小学生と中学生を混合させた仲間づくりが想定されると思いますが、今回は、あえてキャンプで活動する班を小学生と中学生に分けてそれぞれのできるペースを意識して班構成を行いました。そうすると、中学生の方が作業スピードが速くなるので、小学生部門の方には大人のスタッフの配置を多くするなどの工夫をする事で、炊事などの作業スピードを調節しました。

子どもたちの様子

今年のキャンプは、長野にある駒ヶ根キャンプ場で小中学生合同のキャンプを企画しました。このような合同のキャンプの企画はおよそ10年ぶりとなりました。参加者は、中学生6人、小学生13人、大人10人の計29人となり、大人数が参加するキャンプとなりました。



キャンプに行くための交通手段として、マイクロバスを貸し切ることで、道中にもぎやかに過ごしたり、空間を共有することで連帯感をもてたりすることができました。

小学生は、教室で宿泊することがないので、普段の教室でみられないようなはしゃぎっぷりをみせたり、小学生の中でも異年齢で関わり、低学年を高学年が支えている姿が見られました。また、高学年は、普段関わることのない中学生を目の前にし、最初は引いて接していましたが、帰るころには一緒に作業をしたり、一緒に遊んだりとする姿が見られました。

炊事や遊びなどを中学生と小学生で分けるのですが、炊事の際には中学生が小学生の窯の火を管理したり、一緒に遊ぶなど面倒見も良いお兄さんお姉さんの姿がありました。

普段部活などの理由で学習教室に來られていないR君はキャンプに参加し「来年もまたここでキャンプしたい!」などの感想をスタッフに寄せました。このような小中学生の合同キャンプは資金やスタッフの資源がたくさん必要となり、企画も大変となるのですが、世代間を繋げる活動として今後も継続して行っていきたいと思います。

REPORT 外国人子ども支援事業

小学生教室クリスマス会

【開催日】2016年12月17日
【参加人数】子ども30人 スタッフ9人

活動目的

今回のクリスマス会は、子どもたち自身で自分たちのクリスマス会を開催できるようにすることが目的でした。そのために、就学前、低学年と高学年の発達段階に子どもたちを分け、それぞれの子どもが「役割」を担えるように企画をすることをしました。

その目的にした背景には、一つ目に普段、就学前、低学年・高学年と分けて教室を開催している為、互に関わる機会を設けたいということ、二つ目に毎年のイベントでは、スタッフが中心となって企画をしているため、子ども主体にしたいということ。三つ目に高学年の出来ることを増やすため、高学年が企画・実行をできるようにしたいということの思いがあったからです。また、教室に参加している子どもには、言語の習得状況により言いたいことを言えない子どもや、両親の共働きのために、孤食や偏食になりがちの子どもがいました。そのような様子から、具体的な活動内容を決めました。

活動内容

就学前・低学年は、①部屋の装飾、②料理を作ってくれた高学年に気持ちを伝えるカード作成をする、ということを行いました。言語の習得状況を考慮し、役割を持って取り組む活動としては、想い思いに表現をするということです。

①部屋の装飾では、雪だるまを工作したり、ツリーに好きな飾りをつけたり、みんなが座る椅子にも配慮をして華やかに飾ることを行いました。



②高学年に気持ちを伝えるカード作成では、料理をつくっていると聞いた低学年が、感謝の気持ちをカードに綴りました。高学年は、会の企画から携わり、自分たちで料理を作って参加者にふるまうことを行いました。自分たちで、作った事のないものにチャレンジをし、「パスタ」をソースから作ることをしました。

子どもたちの様子

事前準備では、子どもたちは、自身がなにをするのか明確に理解していたため、主体的に動いている様子が見られました。就学前の子どもは、日本語よりも母語ができる子どもがおり、普段はほとんど話す様子が見られないが、装飾の作成を行う中で他の子どもと接したり、話す機会を作ることが出来ました。低学年の子どもは、意見をたくさん出し、その意見を取り入れながら、準備をすることが出来ました。高学年の子どもは、企画・実行をする過程で、周りの友達と相談や話し合い、衝突をしながらも進めることが出来ました。

そして当日は、装飾、カード作り、料理作りを完成させ、他者に褒められたという達成感が会全体として見られました。その背景には、自分たちでやれた

いと構想した会を実行できるという想いや、企画をする事前準備の過程で、周りの友達がいることで相談や話し合い、衝突をしながらも進めることができ、スタッフのフォローがあるという安心感もあったからだと考えられます。

子どもの孤食や偏食については、当日、みんなで食事を囲んで食べるということを行い、苦手な料理をつくるなどをしました。また、シェフを講師として依頼し、料理を美味しく食べてもらうということをしました。賑やかな会を作ることができ、子どもたちは「嫌い」と言いながらも、挑戦して食べるということが出来ました。



REPORT 外国人子ども支援事業

勉強合宿

【開催日】2016年12月23,24日 【場所】野島青少年センター
【参加人数】子ども14人 高校生・大人スタッフ19人

活動目的

勉強合宿の目的は、①受験に向けた学習を行うこと、②先生を講師として依頼し、勉強のノウハウを教えてもらうこと、③同じ受験をする仲間との関わりをもつこと、④中学1・2年生に受験生の姿をみせることです。

活動内容

教科を教えてくれるために、大和市在勤の先生方に依頼しました。子どもたちの学習状況などを事前にお知らせしたことにより、レベル別の学習教材を準備して頂きました。その他に受験生には、面接シート作成、面接練習も行いました。中学1・2年生は、冬休みを宿題に取り組みました。

子どもたちの様子



12月23日・24日に野島研修センターで、3団体による合同勉強合宿を実施し、中学生14人、高校生・大人スタッフ19人、計33人の参加となりました。3団体とは、NPO法人教育支援グループEdベンチャーが開催する子どもの学習支援教室と、昨年6月から厚木保健福祉事務所からの委託事業である生活保護世帯及び困窮世帯の子どもの学習支援教室で

あるFriends☆Star教室とすたんどばいみーの中学生教室です。

5教科で先生を探した時に、特に先生不足であるのが、理科や国語を教えていただける先生です。そのため、理科だと問題集や過去問をスタッフと回答などを参考にしながらとなってしまう、習得が難しいです。毎年理科を教えて頂ける先生や、国語の先生を探すことに苦労している傾向にあるので、うまく先生方とのネットワークを考える必要があるように思います。遠方から来て頂いた先生方などには、交通費などの支給を行ったところ、中にはそれらを「寄付」というかたちで支援して頂いた方もいました。他の学習教室に通う子どもたちどうし、学習以外にも交流の場として、情報交換の場として今回の合同合宿は機能したと思います。

一方、交流の場以外に課題として立ち上っているのは、子どもたちの学習状況が著しく遅れていることです。特に、Friends☆Star教室に通う中学生の中

には小学2年生レベルの学習状況にいる子どももいます。今後かれらに対する支援を考え、高校進学を見据えると、在日年数が長期化しているため、外国人枠の利用が適応外となるため、かなり困難な状況にしていることが懸念されています。またそのような子どもたちは自分たちの今の状況に対する「焦り」みたいなものも持っていないので、学習支援の他に、日本で生きていく上で必要なことや考え方みたいな一種の「適応能力」みたいな植え付けが必要になる場合も多々あります。

今年すたんどばいみーの受験生は3名、エステレージャ教室は4名です。高校を選択する際には、「安全圏」や「アルバイトができるように家から近いところ」などを理由に高校選択しているようです。受験日も近づいてきているので、最後までかれらの受験勉強のサポートができるような体制づくりをしていきたいと思っています。

REPORT 外国人大人支援事業

日本語教室 餅つき

【開催日】2017年1月15日
【参加人数】5名

活動目的

2017年の2回目となる15日の教室では、参加者とスタッフの11名（ベトナム、中国、カンボジア、日本にルーツを持つ）で、いちよう団地の近くの田んぼで、餅つき大会を行いました。天気が寒い晴れた日の中、初めて「餅つき」というものをやった参加者から「なぜ日本のお正月に餅つきをやるの？」との疑問が湧きました。そして、きなこ、ウス、あんこなどの、普

段の生活ではあまり見聞きしない日本語や日本の行事について知ることができました。また、参加者の母国（カンボジア、中国、ベトナム）では、お正月をどのようにして過ごすのかについて、ついた餅を食べながら話しました。

普段の教室では15名前後の学習者がいましたが、本日のイベントにはわずか5名のみ参加だったことが少し残念に思いました。（文責：劉）

**すたんどばいミーでは、
サポートしていただける方を募集しています**

正会員	1口	10,000円/年	入会金5,000円
賛助会員	1口	3,000円/年	入会金3,000円
学生会員	1口	1,000円/年	入会金1,000円

〈振込先口座番号(ゆうちょ銀行)〉

(ゆうちょ銀行からの場合)

記号:10910 番号:17960271

トクヒ)ガイコクジンシエンネットワークスタンドバイミー

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からの場合)

店名:〇九八店(ゼロキユウハチ店) 普通 口座番号:1796027

トクヒ)ガイコクジンシエンネットワークスタンドバイミー



すたんどばいミー
STAND by ME

NPO法人 外国人支援ネットワーク

すたんどばいミー

〒242-0007

神奈川県大和市中央林間3-16-12グリーンコーポ中央林間107

TEL/FAX 046-272-8980

fsn.standbyme.2001@gmail.com

<https://www.fsn-standbyme.org>

(2017年3月31日開設予定)